

短時間集中豪雨対策のイメージ

参考資料 1-1

	排砂・通砂実施期間			代表的なダム流入状況	各ダムにおける運用の概要
	6月	7月	8月		
通砂（6月～8月） (排砂後に 出し平ダム 480m ³ /s、 宇奈月ダム 650m ³ /s のいずれかを上回る洪水が あった場合)	排砂			<p>梅雨期間における洪水の例</p>	<p>両ダムが自然流下に至るまで、約20時間</p>
試験的な通砂（6月、7月） (排砂後に 出し平ダム 300m ³ /s超過 480m ³ /s以下、 宇奈月ダム 400m ³ /s超過 650m ³ /s以下 のいずれかの出水があった 場合) 前線通過を伴うなど、出水の継続時間が比較的長い場合	排砂			<p>梅雨期間における出水の例</p>	<p>自然流下時間、約12時間以内</p>
短時間集中豪雨対策 (8月) (出し平ダム 300m ³ /s超過 宇奈月ダム 400m ³ /s超過 のいずれかの出水があった 場合) 前線通過を伴わぬなど、出水の継続時間が短い場合	排砂			<p>短時間集中豪雨の例 (H20.8.19)</p> <p>短時間集中豪雨においては、出水の継続時間が短く、試験的な通砂が実施出来ない。</p> <p>水位低下を伴わない 短時間集中豪雨対策を実施する。</p>	<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来の通砂方法では実施できなかった短時間出水に対しても、実施できる。 水位低下を伴わず、高水位で維持する。 排砂ゲート等により、流入する細かな土砂をできるだけ放流する。 堆砂面付近の水の流れによりダム湖底に酸素を供給し、土砂変質の抑制効果も併せて期待できる。 <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業終了については、ダム流入量、ダム操作の安全性等を総合的に勘案し決定する。 短時間集中豪雨対策中は、下流河川と海域において、濁りを計測する。

短時間集中豪雨対策 検討スケジュール

参考資料 1-2

短時間集中豪雨対策については、平成22年度も引き続き試験的に取り組むものとする。
得られる基礎データを基に短時間集中豪雨対策の実施方法を検討の上、平成23年度連携排砂計画へ反映する。

検討項目	年度 月	H20 H21	平成22年度												平成23年度							
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9月以降	
						連携排砂・通砂期間											連携排砂・通砂期間					
			評価委員会	協議会												評価委員会	協議会	評価委員会	協議会			
基礎データ収集																						
排砂・通砂(試験通砂含む)時のデータ																						
短時間集中豪雨対策時のデータ											試験的運用											
排砂・通砂期間外のデータ																						
基礎データ分析																						
短時間集中豪雨対策の検討																						
短時間集中豪雨対策の提案・承認																					H23年度連携排砂計画へ反映	
短時間集中豪雨対策の実施																						
効果の検証と課題整理																						